

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-540	22-309	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
<p>Liver alterations are not improved by inulin supplementation in alcohol use disorder patients during alcohol withdrawal: A pilot randomized, double-blind, placebo-controlled study アルコール離脱中のアルコール使用障害患者において、イヌリンの補充は肝臓の変化を改善しない：試験的無作為化二重盲検プラセボ対照試験。</p>		
執筆者		
Amadiou C, Maccioni L, Leclercq S et al		
掲載誌		
EBioMedicine. 2022 Jun;80:104033. doi: 10.1016/j.ebiom.2022.104033. Epub 2022 Apr 28		
キーワード		PMID
腸内細菌叢、イヌリン、アルコール性肝疾患、プレバイオティクス		35490461
要 旨		
<p>背景： 腸内細菌叢の重要な可塑性により、腸内細菌叢を標的とすることがアルコール性肝疾患を改善するための興味深いアプローチとなりうる。新たなエビデンスにより明らかにされつつある。本研究では、アルコール使用障害 (AUD) 患者 (全サンプル) および早期アルコール関連肝疾患 (eALD) を有する部分集団において、肝臓パラメータに対するイヌリン補充の効果を評価することを目的とした。</p> <p>方法： 3週間の解毒プログラムのために入院した 50 名の AUD 患者を無作為二重盲検プラセボ対照試験に登録し、17 日間プレバイオティクス (イヌリン) 投与群とプラセボ群に割り付けた。試験開始時 (T1) と終了時 (T2) に、肝障害、微生物の転座、炎症マーカー、16S rDNA 配列決定を測定した。</p> <p>結果： プラセボと比較して、T2 時点の全サンプルにおいて、AST ($\beta=8.55$, 95%CI [2.33:14.77])、ALT ($\beta=6.01$, 95%CI [2.02:10.00])、IL-18 ($\beta=113.86$, 95%CI [23.02:204.71]) はイヌリン群で統計学的に有意に高かった。eALD サブグループでは、イヌリンの補充は、ビフィズス菌の増加とバクテロイデスの減少を含む腸内細菌叢の特異的な変化をもたらす。これらの変化にもかかわらず、T2 における AST ($\beta=14.63$, 95%CI [0.91:28.35]) と ALT ($\beta=10.40$, 95%CI [1.93:18.88]) はプラセボと比較してイヌリン群で高かった。治療には重要な有害事象や副作用はなく、忍容性は良好であった。</p> <p>解釈： この試験的研究は、17 日間のイヌリン補充とプラセボとの比較において、腸内細菌叢に特異的な変化を誘導するにもかかわらず、AUD 患者の肝障害を軽減しなかったことを示している。これらの結果を確認するためには、より多くのサンプル数と補充期間、肝臓パラメーターの適切なモニタリングによるさらなる研究が必要である。</p>		